

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。

[ a…よくあてはまる, b…あてはまる, c…あてはまらない, d…まったくあてはまらない ]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価
( )内は「よくあてはまる」「あてはまる」
合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 4月, 7月, 12月(現状), 結果分析・改善, 学校関係者評価, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main areas: 'School Management Enhancement' and 'Student Growth through Learning'.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒	⑧ 生徒	学んだことをふり返ったり(復習)次の授業の見通した勉強(予習)を家でしている。	aのみ A-60% B-50% C-40%	25(81)	21(87)	19(79)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」と答えた生徒は87%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は21%であり、4月から4%下がり、目標には到達しなかった。1年生の割合の減少が顕著であった。	(前期) 1日たりとも忘れていないというところでAをつける。自分でハードルを上げて行っている。今回の評価は低いが、先生たちに「できている」と価値付けてもらおうと次回の評価が良くなる。	【評価を終えて】 家庭学習については、「よくあてはまる」が2%減少し、目標を達成できなかった。また、「あてはまる」まで見ても8%減少した結果であった。保護者においても同様に肯定的な回答は74%にとどまった。詳細を見てみると、生徒、保護者共々「あてはまらない」と回答したのは1名だけであり、意識の違いが伺えた。学んだことをふり返ったり、次の授業を見通した勉強を自分で行うことが、様々な課題解決に必要な力であり、学びに向かう人間力に繋がるものとする。今後もガリガリノートの終了冊数に応じて段位認定し、励まし褒める機会を持つ。また、学習内容の質の向上を図るために、学級担任だけでなく、教科担任からも学習方法を示していく。その他にも意欲、習慣を含めた学力に課題を抱える生徒にもきめ細かく指導していく。	
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリ勉タイム(自主学習時間)の確保	⑦ 保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A-85% B-75% C-65%	74%	74%	74%	【7月評価時点での成果と課題】 ガリガリノートの質は全体的に高まっていることが見てとれる。部活動が本格的になり、帰宅時間も遅くなったことで、1年生においては昨年度とは違って家庭学習が十分に定着していないのではないかと考えられる。家庭学習を充実させることが学力向上にプラスに影響すると考え、課題となる。	○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。	【求める生徒の姿】 ・復習や次の日の予習に取り組む生徒	【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出すための新たな取組
			1 2 教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	89%	60%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目に関しては、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月と変わらなかった。「友達に対して思いやりの心で行動している」もそであるが、「あてはまらない」と答えた生徒はおらず、「わからない」という回答であった。	【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つければ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているので、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。	【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目で「よくあてはまる」が7月より15%減少した。「友達に対して、思いやりの心で行動している」の項目においても94%にとどまった。生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもの羽」が定着してきている。また、生徒会でも強化週間を設けて他学年の良さを見つかけたり、書いた相手にとりごえもの羽を渡すという取組を行ってきた。今後も行事においては他学年に目を向けさせたり、クラス全員の良さを見つけないといった生徒の意識を変えてあげられるような活動を定期的に行うなどして、自尊感情を育むとともに他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。	
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒	⑪ 生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	aのみ A-65% B-50% C-35%	49(98)	49(96)	34(98)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目に関しては、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月と変わらなかった。「友達に対して思いやりの心で行動している」もそであるが、「あてはまらない」と答えた生徒はおらず、「わからない」という回答であった。		【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目で「よくあてはまる」が7月より15%減少した。「友達に対して、思いやりの心で行動している」の項目においても94%にとどまった。生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもの羽」が定着してきている。また、生徒会でも強化週間を設けて他学年の良さを見つかけたり、書いた相手にとりごえもの羽を渡すという取組を行ってきた。今後も行事においては他学年に目を向けさせたり、クラス全員の良さを見つけないといった生徒の意識を変えてあげられるような活動を定期的に行うなどして、自尊感情を育むとともに他者への思いやりが自然と生まれるようにしていく。	
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持ちや良い行動を伝え合う	1 5 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	90%	100%	【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つければ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているので、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。	【求める生徒の姿】 互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒	【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳授業の取組
			⑫ 生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	98%	93%	94%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているので、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。				
			⑩ 保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	93%	93%	89%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているので、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。				
			1 6 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育てられている。	a+b A-95% B-85% C-75%	90%	100%	80%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているので、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことに書いていたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。				
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒	⑬ 生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	a+b A-95% B-85% C-75%	95%	87%	94%	○7月評価(Check) 【評価・分析】 挨拶に関する項目において「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した生徒の割合が4月から8%下がった。地域とのつながりが深いこともあり、過去数年は90%台であった。自律清掃に関する項目については4月の調査から変わらず、「よくあてはまる」が38%であり、目標を達成できなかった。	(前期) 掃除を無言でやる意味が難しいのではないかと、「そこ汚れているよ」「もっと綺麗にしよう」という声かけがあってもいいのではないかと。何でも声に出したほうがやりやすい。もっといいものにしていいものではないか。声をかけあうことも大事だと思ふ。無言でやるなら無言の良さを子ども達が考えて、「さあ、やろう」という形に持って行く機会をつくることも大切である。	【評価を終えて】 挨拶に関する項目については7月と比べて「あてはまる」のみを見れば6%減少しているが、「あてはまる」を含めると7%増加した。校外に出かける機会において意識して指導したことや生徒会執行部のほうでも挨拶運動に力を入れて取り組んできたこともあり、改善傾向に繋がった。今後も挨拶の声を響かせる学校を目指して、教師からも積極的に挨拶をしていきたい。	
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑪ 保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	88%	87%	93%	【7月評価時点での成果と課題】 生徒会のあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などの成果もあるが、声が出なくなっている実態が伺える。自律清掃については「あてはまる」まで含めると93%と高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合が上がっていないのは、自律清掃の取組について趣旨が理解されていないのではないだろうか?自律清掃をすることで自分にどのような良い影響があるのかを押し付けていく必要がある。			
			1 8 教師	進んであいさつができるように指導している。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	90%	90%	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。				
			⑮ 生徒	自律清掃(無言、見つけ)を意識して清掃に取り組んでいる。	aのみ A-65% B-50% C-35%	38(94)	38(93)	34(94)	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。				
			2 0 教師	自律清掃(無言、見つけ)を意識した指導をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。				
3	豊かな心と健やかな体を育てる	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒	⑯ 生徒	地域に関心を持ち、その良さを理解している。	aのみ A-70% B-60% C-50%	36(92)	32(89)	28(85)	○7月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は4%下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の高評価であった。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は79%と低かったが、「わからない」と回答した生徒がほとんどであった。	(前期) 「地域の良さを理解している」について「地域に貢献したい」とも、鳥越以外から来たものにとってはわかるが、この環境が当たり前に育つと「その良さを理解している」となると「何やろう」という具合になる。「地域に関心を持っている」「地域に貢献したい」と思っている」というところは小学校でも取り組んでいるので相乗効果があるといい。あなたたちのこんなところが地域と繋がりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。	【評価を終えて】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では7月に比べて4%減少した。また、「地域に貢献したい」と考えている」の項目においても7%減少した。どちらも「わからない」と答えた生徒の割合が増えた結果である。ジオパーク全国大会や文化発表会に向け、総合的な学習の時間において地域の良さや課題について考えて取組を行ってきた。しかし、近年コロナ禍で地域行事も減り、地域との繋がりが薄く感じられる。今後は地域人材を積極的に活用するとともに公民館と連携して地域と繋がった活動を行ってきたい。	
			○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	2 1 教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように取り組んだ。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	100%	90%	【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。			
			1 7 生徒	地域に貢献したいと考えている。	a+b A-90% B-80% C-70%	78%	79%	72%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。				
			2 2 教師	地域への貢献意欲を高める指導をした。	a+b A-90% B-80% C-70%	80%	90%	90%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。				